

### 【基本方針】

団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う

### 【年間目標】

- ① ご入居者とご家族との思い出作り
- ② 自立支援に向けた取り組み
- ③ 言葉使い、礼儀の徹底
- ④ 職員の知識・技術・意識の向上
- ⑤ サービスの質の向上
- ⑥ ご入居者・ご家族に寄り添った看取り介護をおこなう
- ⑦ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を取り入れた業務改善
- ⑧ 短期入所と合わせて 99.5%以上の稼働を目指す

### 【実践報告】

#### ① ご入居者とご家族との思い出作り

- ・例年多くのご家族が参加頂ける納涼祭は今年度も多くの参加を頂いた。年間の各種行事の中で、お花見や敬老祝賀会にご家族に参加頂けた。日々の行事については施設内に開催の案内を貼る等、工夫はおこなった。
- ・外食レクレーションや地域の行事等に参加できる方が限られていた為、新しい取り組みでお芋ほりを行った。掘ったお芋はご入居者で食べて頂き喜ばれた。

#### ② 自立支援に向けた取り組み

- ・外部研修への参加は見送り、施設内で充実した支援が継続できるように進めた。
  1. 日中オムツ0に向けた取り組み
  2. 水分量1日 1500cc以上の摂取（※水分制限がかかっている方は除く）
  3. 下剤の中止
  4. 運動（歩行）
  5. 常食化
- ・食事・水分等日頃から必要なことを考え取り組みをおこなった。水分摂取や排便・運動の必要性を理解しながら処遇を考えたが、終末まで施設生活を望む方が増えたこと、オムツ0の定義が以前より厳しい内容となり達成するには困難となった。

#### ③ 言葉遣い、礼儀の徹底

- ・意識はしているものの、確実にはできていなかった。
- ・年度の後半には言葉遣いの会議も開催し、新年度に向けて再度「言葉遣い・礼儀の徹底」を理解してもらった。

#### ④ 職員の知識・技術・意識の向上

- ・各月テーマ設定をおこない、職員自らが講師となり寮母会議の時間に勉強会として取り組んだ結果、職員の自主性が見られるようになった。
- ・申し送られた内容についてはできていたが、職員個々人がご利用者の状態を深く理解し、適切な支援方法を考えながら職務にあたることは足りなかった。

#### ⑤ サービスの質の向上

- ・身体拘束について

28年度末には4名の身体拘束対応の方がいた結果となった。部分的な解除ができている方が増えているので、ご入居者の行動をさらに把握し、全面的に解除できる方向で検討していく。

- ・事故対策について

ご入居者の重度化に伴い、介護量が増えた結果、転倒・転落・ずり落ちなどの事故が多くなった。結果的に骨折する方が前年度よりも多かった。入院した方は2名だったものの、今後事故内容を評価し、介助方法などに問題がないか分析を行うこととなった。

- ・感染症発生状況

夏の初めウィルス感染による肺炎の可能性の方が複数名おり、隔離対応を行う必要のある期間があった。発生源が不明の為、外部からの面会は中止とした。ノロウィルス陽性反応なく、早めの対処隔離対応にて感染拡大には至っていない。

- ・チームワークの構築

ご入居者の適切な処遇を常に考え、お互いにより良い介護を実践しているものの、チームケアに徹することができなかったことが一時的に起きてしまった。職員のモチベーションがらないよう声掛け、話し合いをおこなった。

#### ⑥ ご入居者・ご家族に寄り添った看取り介護をおこなう

- ・施設での看取りの際に、ご家族とも相談し、ご入居者が慣れ親しんだものを飾る等、心地よい空間づくりを皆様に提供できた。

#### ⑦ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を取り入れた業務改善

- ・ご入居者の環境整備に向け、職員の動線の確保や必要物品の配置等、多職種で相談し改善した。

#### ⑧ 短期入所と合わせて99.5%以上の稼働を目指す

- ・今年度の年累計→101.9%（ロングのみ年累計96.1%）  
目標の稼働を達成することができた。